

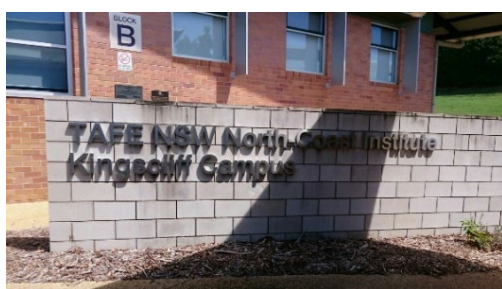
国際交流基金助成事業報告書

薬学部 3年次生 井上 和香奈

この度、本学の国際交流基金の助成を受け、2019年3月4日～18日までの期間、オーストラリア New South Wales 州のキングスクリフにある TAFE（高等職業訓練専門学校）に通い、薬学及び語学研修を行いましたので、その内容についてご報告いたします。

1. 現地研修校 TAFE について

TAFE (Technical and Further Education) は、調理、ビジネス、マッサージ、美容などのさまざまなコースがある職業訓練専門学校です。私はそこで、午前は英語の授業、午後からは薬学に関する授業などを受けました。



(1) English class

このクラスでは、スピーキングやリスニング、発音などをオーストラリアの文化や地理等と絡めながら学びました。ゲーム形式で新しい単語を覚えたり、週末にしたことなどをグループになって話したりしました。分からないところがあっても、先生は楽しく丁寧に教えてくださいました。

(2) Pharmacy class

このクラスでは、オーストラリアの薬局の役割や薬の分類などについて学びました。市販薬の外箱や処方箋に記載しなければいけない事項を学んだり、市販薬やサプリメントの広告を作ったりしました。また、TAFE から少し離れたところにあるグリフィス大学に行き、新しい科学的技術の話の聞いたり、薬の分包や軟膏をつくる模擬体験をしたりしました。別の日には、近郊の薬局に行き、働いておられる方に質問する機会もありました。オーストラリアでは、薬剤師のほかに、Dispensary assistant と Pharmacy assistant がいること、薬局で薬剤師がインフルエンザのワクチンを打つことができることなども学びました。日本のシステムとは大きく異なることを知りました。



(3) その他の体験

オーストラリアの先住民のアボリジニーの方から彼らの文化について教えていただきました。そこでは、伝統的に利用されてきた動植物 (Bush tucker) を見せてもらい、実際に触ったり、食べたりしました。

また他の日には、現地の小学生に日本の文化を紹介する機会がありました。私は福笑いの文化を説明し、子どもたちと一緒に楽しい時間を過ごしました。

2. ホームステイについて

ホームステイ先は、TAFE から車で10分くらいのところでした。ホストファミリーは、小学生の子どもが2人いる4人家族で、とても温かく迎え入れてくださいました。緊張している私に優しく話しかけてくれたり、なかなか聞き取れないときもゆっくり、何度も分かるように話してくれたりしました。

TAFE へはホストファーザーやマザーに送り迎えしてもらったり、他のホストファミリーの方の車に乗せてもらったりして通いました。また、現地の路線バスに乗ることもありました。オーストラリアのバスは日本とは違って、車内アナウンスや次の停留所の表示などが無く、戸惑うことも多くありました。初めてバスで帰るときには、降りるバス停が不安だったので、運転手の方に尋ねたり、降りてからも近くにいた方に道を教えてもらったりしながら帰りました。その後には、何度か同じバスで一緒になった方と挨拶をしたり、だんだん短い会話をしたりすることもできるようになり、嬉しい気持ちになりました。

家の近くにとってもきれいなビーチがあり、ホストファミリーと一緒にそこを散歩したり、泳いだりしました。また、ビーチ沿いをサイクリングすることもありました。休日には、パドリングを覚えてもらうなど、初めての体験をたくさんさせてもらいました。



3. おわりに

今回の研修を通して、自分の英語能力の低さを痛感しました。相手の言葉がちゃんと聞き取れなかったり、自分の思っていることをなかなかうまく伝えられなかったり、もどかしさを感じることもありました。薬学については、日本とオーストラリアの類似点や相違点を考えることによって、より深く学んでいきたいと思いました。

行くまでは不安でいっぱいでしたが、研修が始まると、初めて経験することが多く、時間が過ぎるのは大変早く感じました。不安も消え、終わりが近づくにつれ、もっといろいろなことを学びたい、もっとホストファミリーや現地の方々と話したいという気持ちを強く持つようになりました。この研修により、自分の視野を少し広げることができ、自分を見つめ直す良い機会になりました。この体験をこれからの自分に活かしていきたいと思えます。

今回、国際交流基金の助成や多くの方々の支援のおかげで、このような貴重な研修・体験をさせていただくことができ、大変感謝しています。ありがとうございました。